



Color Your World

共 創 学 部

現在を
未来を
共に創る

School of Interdisciplinary Science and Innovation (ISI)

2026 - 2027

九州大学



共創学部



知のリンクをたどれ

大規模な気候変動、経済格差や貧困、失われつつある自然環境、エネルギー資源をめぐる争奪、グローバリズムと宗教・民族対立、そして世界的なパンデミック再来への懸念……。

いま私たちが直面している問題の多くは、さまざまな要因が複雑に絡み合っているもので、一つの専門分野の視点だけで解決するのは困難です。

学問分野の枠を超えて知のリンクをたどり、いくつもの視点・視野・視座から問題の解決方法を探る。

そんな学び方、アクションの起こし方を経験しておくことが

今ある、あるいは未来に起こりうる課題へのアプローチには不可欠です。

「共創学部」では、多様性を柔軟に受け入れ、活かすスタンスや幅広い知識と高度なコミュニケーション能力を養います。

2028年10月に新学科を開設予定

英国の名門・グラスゴー大学との共同学位プログラム（JDP）に基づき、新たな学科の開設を予定しています。

本プログラムは、国立大学の学部レベルでは初めての試みであり、学生は日本と英国の両方で学ぶことができます。

アジアやヨーロッパの現場でのフィールドワークを通じて、環境問題の現実について深く学び、

将来、国際公務員などとして世界で活躍したいと思っている学生にとって、

とても大きなチャンスを提供するプログラムです。

※構想中につき変更が生じる可能性があります

※詳しくは右記の特設WEBサイトをご覧ください



<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/pages/jdp>



学部長メッセージ

共創学部長

荒谷 邦雄 ARAYA Kunio

学位：博士（理学）

専門分野：昆虫学、生物多様性科学

共創学部は2018年4月に九州大学で12番目に設置された、最も新しい学部です。約50年振りとなった学部設置には、どのような意味があったのでしょうか。

それは、皆さんが歩む時代は、これまでとは大きく異なり、従来の学部での学びだけでは、これから起こる変化に対応できないからです。大規模な気候変動、生物多様性の喪失、民族対立、テロ、パンデミック……まさに現在の我々は地球規模・人類規模の様々な課題に直面しています。こうした課題を解決するためには、専門家同士はもちろん、様々な立場の人々が協力して課題に取り組む必要があります。そのためには幅広い視野と専門性を兼ね備え、課題に対して多角的な視野から、様々な方法論を組み合わせるアプローチできる人材が不可欠です。これこそが共創学部が目標とする人材像です。

しかしながら、本来、専門性とは「狭く・深く」一つの道を極めるものであり、幅広い視野とは矛盾するものです。一方で、幅広い視野を身につけるために、「広く・浅く」探求するだけでは、それこそ中途半端な器用貧乏に終わってしまいます。幅広い視野と専門性を兼ね備えるという、いわば矛盾した目標を達成するにはどうしたらよいのでしょうか。

共創学部が掲げるこの「幅広い視野と専門性を兼ね備えた人材」を目指す道程は、広い裾野をもった高山の登頂に例えられるかもしれません。山の頂（＝専門性）はどこまでも高く、かつそれを支える広い裾野（＝視野）を伴ってそびえ立つ雄大な山の姿はまさに幅広い視野と専門性を兼ね備えた理想のイメージです。しかし、この山に登頂するのは並大抵のことではありません。なぜなら、この高山は前人未到なのです。

従来の学部教育は、ある意味、整備された登山道を登るスタイルといえるでしょう。もちろん高い頂を目指す苦労はありますが、道に迷うことはありません。しかし共創学部の教育は、課題解決という頂に至るルートを自分自身が切り開いていくスタイル、まさに前人未到の登山です。山の麓にたどり着いただけで息が切れ、やっとの思いで山の斜面に取り付いたものの、いつまでたっても近づかない山頂に絶望するかもしれません。

そんな苦しく、先の見えない登山を成し遂げるためには、強い精神力と苦難に挑み続けるためのモチベーションを保つことが重要です。長く苦しい登山の日々でモチベーションを保ち続ける秘訣として、私個人は、「何か自分の大好きなもの、とことん知りたいことを見つけること」が重要ではないかと思っています。私は生物学者ですが、主たる研究対象は「クワガタムシ」です。私の研究のモチベーションは「大好きなクワガタムシの全てが知りたい」という欲求です。そんな私にとって、分類学や系統学、形態学、生物地理学、進化生物学、発生学、分子生物学といった生物学分野の様々な専門分野（ディシプリン）は、「大好きなクワガタムシの全てを知る」ためのアプローチの手段、さらに言えば道具だと思っています。要するに、私はこうした様々な専門分野の知識や技術を総動員して、世界中のクワガタムシを自分の手で捕まえ、その魅力の全てを解き明かしたいのです。

私の場合はクワガタムシですが、好きなものや知りたい対象は国や地域、歴史上の人物など何でも構いません。例えば、好きな国について探求するには、その国の歴史や民族、言葉、文学、政治、経済、社会はもちろん、自然環境や地質、動植物相についても知る必要があります。逆に言えば、好きなことや知りたいことを本当に極めようとするれば、自ずと多角的な視野から様々な方法論を組み合わせるアプローチを実践することになるのです。

こうしてみると、幅広い視野と専門性を兼ね備えるには、ある意味、究極の「オタク」になるのが近道かもしれません。「好きなことや知りたいことをとことん極めたい」というオタクのモチベーションがあれば、少々苦労もやり甲斐に変えて乗り切ることができるはずです。

さあ皆さん、すでに好きなことや知りたいことがある場合には、共創学部に入學して、それをとことん極めましょう。好きなことや知りたいことがまだ見つからない場合には、共創学部に入學してそれを見つけてください。そして、まだ誰も成し得ていない高山を攻略するための第一歩を共に踏み出しましょう！



九州大学について

九州大学の起源は、1903年に設置された京都帝国大学福岡医科大学に遡ります。総合大学としての起源は、1911年1月に九州帝国大学が創立、同時に工科大学が設置され、同年4月医科と工科が合併し、堅実な歩みが始まりました。現在では、学生約19,000人(留学生約2,100人を含む)、教職員約8,000人が在籍し、2018年4月にスタートした共創学部を加えた12学部、20学府(大学院、教育組織)、16研究院(大学院、研究組織)、4専門職大学院、高等研究院、基幹教育院、5研究所、国内最大級の大学病院や附属図書館等を擁する我が国を代表する基幹総合大学として発展しています。

本学の概要

- 1903 京都帝国大学福岡医科大学
- 1911 九州帝国大学
- 1949 (新制)九州大学
- 2003 九州芸術工科大学と統合
- 2004 国立大学法人九州大学
- 2018 **共創学部 開設**

学部

共創学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部
理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
芸術工学部	農学部			

大学院

人文科学府	地球社会統合科学府	人間環境学府	法学府	法務学府
経済学府	理学府	数理学府	システム生命科学府	医学系学府
歯学府	薬学府	工学府	芸術工学府	システム情報科学府
総合理工学府	生物資源環境科学府	統合新領域学府	マス・フォア・イノベーション連携学府	人文情報連係学府



データでみる共創学部

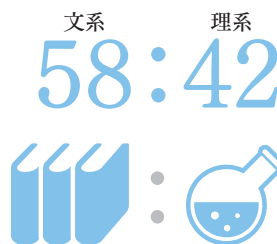
学生
8~9名
に対し
チューター教員
1名



外国人教員



高校時代の文理比



男女比

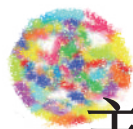
男 44 : 女 56

文理の枠を超えて

26部局

から多様な教員が集結

- 基幹教育院
- 人文科学研究院
- 比較社会文化研究院
- 人間環境学研究院
- 法学研究院
- 経済学研究院
- 言語文化研究院
- 理学研究院
- 医学研究院
- 薬学研究院
- 工学研究院
- 芸術工学研究院
- システム情報科学研究院
- 総合理工学研究院
- 農学研究院
- 応用力学研究所
- マス・フォア・インダストリ研究所
- 熱帯農学研究センター
- 科学技術イノベーション政策教育研究センター
- 韓国研究センター
- 留学生センター
- 学術研究・産学官連携本部
- 共創教育推進センター
- アジア・オセアニア研究教育機構
- アイソトープ統合安全管理センター
- 先端物質化学研究所



主な進路・就職先

● 民間企業等

ANAウイングス
Bloomberg L.P.
ENEOS
EY Japanグループ
JFEエンジニアリング
JFEスチール
JTB
KADOKAWA
KBC九州朝日放送
LINE
M&Aキャピタルパートナーズ
NTTデータ九州
NTTドコモ
PwC Japanグループ
UCC上島珈琲
アイリスオーヤマ
アクセンチュア
あずさ監査法人
アドバンテスト
アマゾンジャパン
いすゞ自動車
ウィル
オービック
カプコン
キリンホールディングス
コムチュア
ジーユー
ソフトバンク
デロイト トーマツ
トヨタ自動車
ニトリ
ハウスデンボス
ビクターエンタテインメント
ファーストリテイリング
フリー
ペイカレント・コンサルティング
ホープ
マイナビ
マクシアンエリクソン
メタルワン
リクルート
レバレージーズ
江崎グリーコ

九州電力
共同通信社
黒崎播磨
住友化学
住友商事
住友生命保険
住友電気工業
全国共済農業協同組合連合会
全日空商事
全日本空輸
第一生命保険
大広九州
大成建設
大和証券
大和総研
中部電力
テレビ大阪
電通
東海テレビ放送
東京海上日動火災保険
東京ビッグサイト
豊田通商
西日本シティ銀行
西日本新聞社
西日本鉄道
西日本電信電話
日鉄ソリューションズ
日本IBM
日本航空
日本食研ホールディングス
日本生命保険
日本電気
日本放送協会
日本郵政
日本郵船
農林中央金庫
野村総合研究所
博報堂
福岡銀行
福岡国際空港
福岡商工会議所
福岡地所
富士通

ベネッセコーポレーション
星野リゾート
三菱地所
三井住友海上火災保険
三井住友銀行
三井住友ファイナンス&リース
三菱UFJ銀行
三菱重工業
三菱商事
三菱電機
明治安田生命保険
モンベル
山崎製パン
読売新聞
楽天銀行
楽天グループ
楽天証券
良品計画

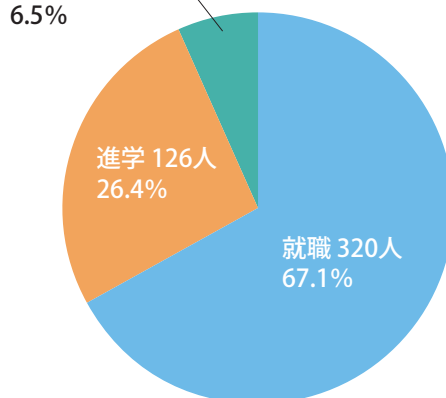
● 官公庁等

経済産業省
出入国在留管理庁
佐賀地方方法務局
海上自衛隊
東京都
江東区
山口県
福岡市
宮崎県
沖縄県
九州大学
科学技術振興機構
都市再生機構
労働者健康安全機構

● 進学等

九州大学大学院
人文科学府
地球社会統合科学府
人間環境学府
経済学府
システム生命科学府
芸術工学府
システム情報科学府
総合理工学府
生物資源環境科学府
統合新領域学府
人文情報連係学府
北海道大学大学院
東京大学大学院
東京科学大学大学院
東京藝術大学大学院
早稲田大学大学院
京都大学大学院
大阪大学大学院
神戸大学法科大学院
沖縄科学技術大学院大学
Australian National University
Leipzig University
London School of Economics and Political Sciences
Lund University
University of Applied Science Berlin
HTW
Utrecht University

その他 31人
6.5%

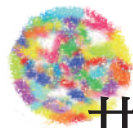


これまでの卒業生の主な進路状況

共創学部卒業生の進路情報（学部 HP）



<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/pages/students/career/ISI>



共創学部教育

九州大学が全ての学生に求める「**能動的学習能力**」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「創造的構想力」、「国際コミュニケーション力」、「課題検討力」、「協働実践力」を養成します。これらの態度・能力の修得を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指します。

常に課題を意識しながら能動的に学ぶことで、これからの社会で活躍するために必要な態度・指向性・知識・技能をもつ人間へと成長していくことができます。

創造的構想力

ありうべき未来を想像し、新しい社会的価値やイノベーション創出を通じてそこに至る道筋を構想できる。

能動的学習能力

課題の検討と解決に必要となる知識や能力を主体的に探究することができる。

国際コミュニケーション力

背景の異なる様々な人々と、言語や専門の垣根を超えて協力し、理解し合うことができる。

課題検討力

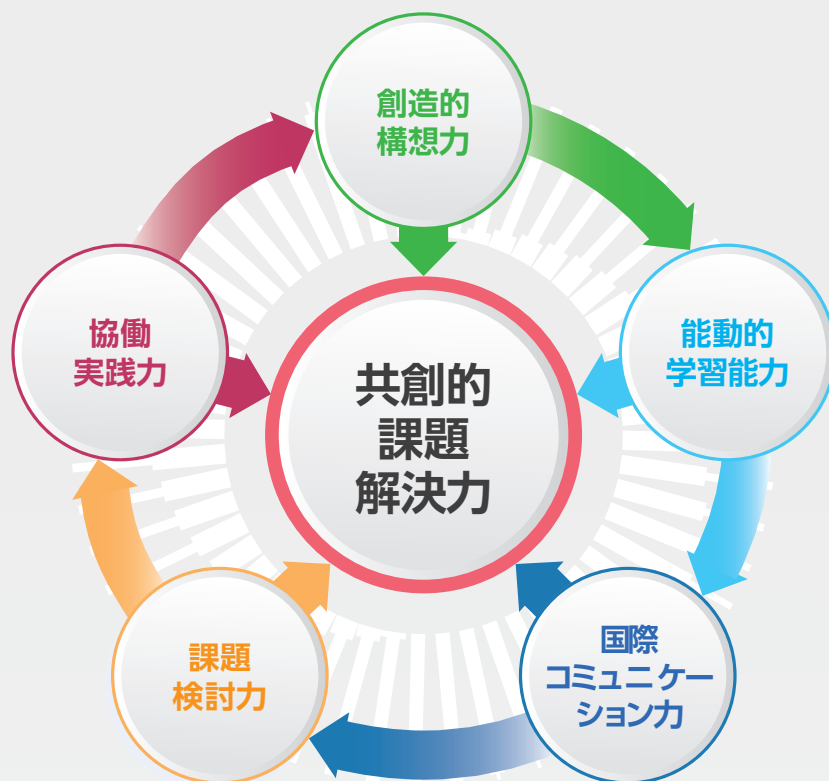
既存の学知を活用し、課題の根源的原因やその解決方法を検討することができる。

協働実践力

背景の異なる様々な人々との議論や協働を通じて、実現可能な課題の解決方策を立案することができる。

共創的課題解決力

「国際コミュニケーション力」、「能動的学習能力」、「課題検討力」、「創造的構想力」、「協働実践力」の5つの力を総合して、課題の解決に取り組むことができる。



育成する人材像

For Global Life

「国際的・地球的課題に対する解決策をコーディネートして、世界に効果的に情報発信できる実務家」

For Changing Society

「国際社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインする専門家」

For Future Science

「文理を超えた学際的知見を修得し、国内外大学院に進学する、諸科学の境界・学際的領域の研究者」

学位

学術

(Bachelor of Arts and Sciences)



教育のポイント

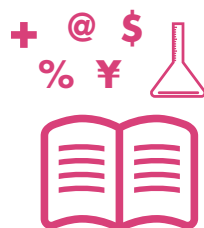
1 徹底した語学教育

習熟レベル・能力別のクラスによる授業により、高い英語運用能力を身につけるほか、現代の課題を認識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を養います。また、学術英語の語彙や表現、自らの意見を述べる力など、外国語による合意形成プロセスも学びます。留学生に対して行う日本語教育もレベル別・技能別のクラスで行います。



2 課題解決型のカリキュラム

複数の学問分野の知識や技能を組み合わせ、問題の解決方法を考えていくため、人文科学、社会科学、自然科学という既存の学問分野を横断・融合する内容のさまざまな授業を用意し、学生自身が設定した課題の解決に必要な複数の専門分野の高度な知識や技能、考え方を修得します。



3 実践的な協働学習

チーム型学習(Team-Based Learning)による「共創基礎プロジェクト」、「共創プロジェクト」を必修化することで、他者と協働して課題の解決を行う際の手法や技法、知識の活かし方、他者との意識の組み合わせ方や合意形成など、実際のプロセスを通して身につけます。



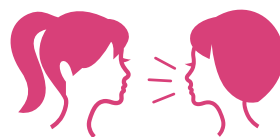
4 海外大学への留学等

海外大学への留学等を義務付け、すべての学生が異なる文化の中で学び、活動する経験を積むことで、国際理解や知識の拡大、言語能力とコミュニケーション能力の向上を図ります。



5 留学生とのクラス・シェア

日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ授業スタイルを積極的に取り入れることで、日常的に日本人学生と外国人留学生の交流が行われる環境をつくります。互いに助け合い、コミュニケーションを取りやすい環境の中で、双方が国際的な感覚を養うことができます。



6 レクチャーシリーズ

国内外から研究者だけではなく、現場の実務に携わってきた実務家や行政官、クリエイターなどを講師として招き、その経験をお話いただくことで、学生の視野を広げることを目的としています。各分野の第一線で活躍している方々より、現在、この世界で実際のところ何が起きているのか、それに人々がどのように対処しようとしているのかを、学問的ないし実践的な視点から解説していただきます。





カリキュラム

1年次

2年次

視野を広げ、課題に取り組む土台をつくる：課題の分析・検討に必要な様々な学知と技能を学び、協働や経験を通じてもの

高年次基幹教育科目

協働科目

知識や技能、考え方、背景の異なる様々な人々と協働して、課題を検討、
・共創基礎プロジェクト ・共創プロジェクト

共創基礎演習

アプローチ科目で学んだ学知や技能を、少人数での

アプローチ科目

我々が直面している課題を考えるうえで必要不可欠な学問的
身に付けます。

基幹教育

九州大学で学ぶ、全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学習し、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能の基礎を身に付けます。

- ・基幹教育セミナー
- ・課題発見科目
- ・学術アプローチ科目
- ・言語文化科目
- ・文系ディシプリン科目
- ・理系ディシプリン科目
- ・サイバーセキュリティ科目
- ・健康・スポーツ科目
- ・総合科目

共創基礎科目

共創学部での学修の土台となるものの考え方や見方、研究手法、技能などを学びます。

- ・学術研究基礎
- ・共創のための数学
- ・システム科学基礎
- ・課題とイノベーション
- ・データの収集・分析
- ・世界の様々な哲学
- ・世界を理解するための歴史的視座

基幹教育科目：英語インテンシブコース

英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を徹底的に向上させ、英語が「使える」能力を身に付けます。

- ・インテンシブ英語 ・学術英語

人文・社会分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「文化的記憶入門」
- ・思想・倫理・哲学B「文化的記憶探究」
- ・思想・倫理・哲学C「社会哲学論」
- ・文学A「東アジアの文学と文化」
- ・文学B「比較文学比較文化入門」
- ・言語・コミュニケーション論A「言語研究概論」
- ・言語・コミュニケーション論B「コミュニケーションの本質」
- ・言語・コミュニケーション論C「Introduction to Language Policy」
- ・言語・コミュニケーション論D「Language Education Policy to Immigrants: Japan and the World」
- ・歴史学A「『難しい歴史』：南京事件と戦後の学生運動・環境運動」
- ・考古学A「公共考古学」
- ・考古学B「社会集団論」
- ・考古学C「先史社会研究の理論と方法」
- ・人類学A「人類学のインタビュー法」
- ・政治学A「政治学基礎論」
- ・政治学B「規範的政治理論」
- ・国際関係論A「国際政治」
- ・国際関係論B「中国外交論」
- ・経済学A「経済分析入門」
- ・経済学B「開発経済学」
- ・経済学C「ベクトルと行列からみる社会」
- ・経済学D「Critical thinking through behavioral economics」
- ・経済学E「ミクロ経済学1」
- ・経済学F「ミクロ経済学2」
- ・地域研究A「地域研究基礎論(中東政治)」
- ・地域研究B「文化人類学的フィールドワーク論」

自然科学分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「生命倫理科
- ・地域研究A「地球環境実習」
- ・数学A「統計入門」
- ・工学A「自然災害とレジリエンシ
- ・工学B「自然災害とレジリエンシ
- ・工学C「物理現象と数学的表現」
- ・生物学A「昆虫学基礎論」
- ・生物学B「生物の多様性と進化」
- ・生物学C「分子生物学」
- ・生物学D「遺伝子実験と解析技
- ・生物学E「遺伝学と進化」
- ・生物学F「遺伝子とバイオダイバ
- ・生物学G「分子生物学と細胞生
- ・生物学H「生化学、内分泌学およ
- ・物理学A「自然科学の基礎」
- ・物理学B「物理学実験入門1」
- ・物理学C「物理学実験入門2」
- ・地球科学A「地球の理解」
- ・地球科学B「フィールドワーク基
- ・地球科学C「地球物質の科学1」
- ・情報学A「ヒトと情報」

学際分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「科学的に考えるとはどういうことか」
- ・思想・倫理・哲学B「科学思想史」
- ・言語・コミュニケーション論A「多文化社会における言語・コミュニケーション実践」
- ・言語・コミュニケーション論B「ファシリテーション入門」
- ・考古学A「考古学基礎実習Ⅰ」
- ・考古学B「考古学基礎実習Ⅱ」
- ・地理学A「東アジアの経済地理学」
- ・地理学B「自然環境地理学」
- ・地理学C「人間環境地理学」
- ・地理学D「環境地理学演習」
- ・地域研究A「地域研究基礎論」
- ・数学A「数理論理A」
- ・数学B「数理論理B」
- ・工学A「水工・水文学」
- ・工学B「都市気候と居住環境の物理
- ・工学C「都市気候と居住環境の物理
- ・工学D「地球資源工学」
- ・情報学A「データアナリティクス1」
- ・情報学B「データアナリティクス2」
- ・情報学C「ビッグデータ処理」
- ・情報学D「質的研究法」
- ・情報学E「Python Programming in
- ・情報学F「Python Programming for
- ・情報学G「実データ解析技法1」
- ・情報学H「実データ解析技法2」
- ・科学技術論A「科学技術社会論」
- ・デザイン学A「福祉とコミュニケーション
- ・デザイン学B「デザインとイノベーシ
- ・生態学A「生物多様性基礎論」

経験科目

留学やインターンシップを通じて、自分が生まれ育った街や国、地域を超えて、世界中の様々な人々と交流し、自分とは異なる考え方や見方を学び、
・異文化対応1 ・異文化対応2 ・海外活動A ・海外活動B ・グローバル・オンラインA ・グローバル・オンラインB ・海外留学認定科目(ア

レクチャーシリーズ

実際の課題解決の現場ではどのような取り組みがおこなわれ、どのような困難に直面し、いかにしてその困難を克服しようとしている

必要に応じて他学部などの科目を履修

3 年次

4 年次

の考え方や視野を広げる

課題に取り組む上で必要となる能力を磨く：実際に課題の分析・検討をおこなうことを通じて、将来的な課題の解決に必要な学知や技能、視点、態度を修得する

将来的な解決への道筋を考える思考法や態度、スキルを身に付けます。

演習形式で深めることを目的とします。

共創発展 演習

主指導教員から、ディグリープロジェクトの遂行に必要な方法論や技能、モノの見方などを、定期的に指導を受けることを通じて修得します。

方法論や技能を

課題科目

アプローチ科目で学んだ学問的方法論や知識、技能などを活用して、実際の課題を考え、その将来的な解決に至る道筋を探ることを学びます。

人間・生命領域

- ・システム神経科学
- ・栄養生理学
- ・がんと健康の科学
- ・Basic Pharmaceutical Science
- ・Advanced Pharmaceutical Science
- ・遺伝学と発生生物学

地球・環境領域

- ・生物多様性科学
- ・自然環境地理学応用演習
- ・保全遺伝学
- ・地球について考える
- ・社会の中の地球科学
- ・人文環境地理学応用演習1
- ・人文環境地理学応用演習2
- ・昆虫学演習
- ・環境都市政策
- ・環境保全・再生
- ・流域環境学
- ・大気海洋科学
- ・地球の変動
- ・地球物質の科学2
- ・地球科学実習

国家と地域領域

- ・政策評価論
- ・ロシア経済論
- ・比較史
- ・越境史
- ・国家と政治
- ・東アジアのジェンダー史
- ・現代中国論
- ・計量中東政治
- ・日本経済史
- ・地域生態論1
- ・地域生態論2
- ・電気エネルギーの供給方法と問題点

人と社会領域

- ・国際福祉論
- ・臨床教育学
- ・観光と文化
- ・グローバル・ガバナンス
- ・言語データ分析
- ・コミュニケーションと認知
- ・Globalized English
- ・物質文化研究1
- ・物質文化研究2
- ・物質文化研究3
- ・自己・他者の理解
- ・フィールドワークとチームワークを通じた地域課題の探求
- ・人骨考古学実習
- ・Law in Modern Society
- ・日本語教育理論

領域横断

- ・コミュニティと社会開発
- ・共創プログラミング
- ・地域史
- ・比較地域研究
- ・哲学から課題に取り組む
- ・規範的政治理論演習
- ・宗教研究
- ・地球温暖化と水循環
- ・地盤防災とサステナビリティ

- ・デザイン思考による課題解決
- ・健康科学と社会問題
- ・デザイン思考プロセス演習
- ・デザイン思考エンジニアリング演習
- ・デザイン思考コミュニケーション演習
- ・現代物理学
- ・持続可能な資源処理

ディグリー プロジェクト

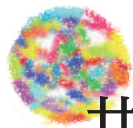
(卒業研究)

学生一人一人が将来的な解決を目指す課題を選定し、そのために必要となる方法論や技能を駆使して、課題の根源的な原因の探求や、将来の解決に不可欠な手法やモノの見方などの模索に取り組めます。

- ・ディグリープロジェクト1
- ・ディグリープロジェクト2
- ・ディグリープロジェクト3

違いを超えて協力する姿勢を身に付けます。
アプローチ科目へ分類)

のかなどを学ぶことを目的に、産官学、様々な分野から講師を招き、講演やワークショップ形式で開講します。



共創学部の英語教育

共創学部には英語を学ぶ「シカケ」がたくさん用意されています。

確かな語学力を身につけ、世界へ羽ばたくためのプログラムがここにはあります。

シカケ

1

英語を集中的に学ぶ 英語インテンシブコース

1年次では3つの科目からなる英語インテンシブコースで時事英語・学術英語を集中的に学びます。また、九州大学のSALC (Self-Access Learning Center)では留学生との英会話セッションや英語での勉強会などが開催されており、授業外でも、英語を使う機会が確保されています。この他にも、海外大学と共同で行うオンライン授業/COIL (Collaborative Online International Learning) も年に複数回開催しており、疑似的な留学を体験できます。

シカケ

2

全員必須の留学

共創学部では留学生を除く全員に留学が義務付けられ、1ヶ月程度の短期留学から1年間の交換留学まで様々なプログラムが用意されています。自分に合ったプログラムを見つけて、世界へ飛び出しましょう。

シカケ

3

英語で学ぶ専門科目

共創学部では様々な分野の授業が英語を用いて行われます。英語で専門科目を学ぶことで留学への準備となり、留学後には身につけた力を存分に発揮する場となります。

シカケ

4

英語で研究の成果を発表

英語で行う卒業研究発表会で自分の成果をきちんと伝えられるよう、英語そのものだけでなく英語の発表技法や論理展開などもしっかり学びます。また、英語での研究発表は国際的な学術会議等での発表の準備にもなります。

3つのテーマについて学ぶ

Global Issues

世界の時事問題について学びます。英語のニュースやエッセイなどを読んで要約や自分の考えを述べる訓練をし、同時に世界の課題を認識・発見する力を養います。

Japanese Issues

日本の時事問題について、留学生とともに英語で学び、日本を客観的に観察し、議論する力を身につけます。また、ディスカッションやディベートなどを通して、意見を共有し、高め合うプロセスを学びます。

Academic Issues

学術英語の基礎を学び、論理的な文章の作成方法、論文の書き方、効果的な発表の方法などを身につけます。また、学術的な発表や英文を理解する力を涵養します。

英語開講科目例

- Global Governance
- Comparative Area Studies
- Introduction to Cultural Memory Studies
- Bioethics
- Critical thinking through behavioral economics
- Comparative History
- Fundamentals of Modern History
- Earth Resources Engineering
- Molecular Biology
- Basic Pharmaceutical Science

ディグリープロジェクト (卒業研究)

学生自らが課題を設定し、これまでに学んだ知を組み合わせ、課題解決のための新しい知や価値の創出に取り組みます。課題の解決策を異なる2つの学問分野からアプローチし、課題の解決方法等を卒業論文等にまとめ、英語で発表します。



留学情報

グローバル社会において多様な分野で活躍する人材を育成するため、共創学部では海外大学への留学等を義務付けています（語学研修のみの留学は認められません）。全ての学生が異なる文化の中で学び活動する経験を積むことで、広く異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在を認識し、国際理解・知識の拡大に加え、コミュニケーション力と行動力の向上を図ります。

なお、外国人留学生は、本学で学ぶことですので留学を経験していることなどから、原則として日本国内でのインターンシップ等を行います。

交換留学

海外の大学機関と締結した学生交流協定等に基づき、交換留学生として1年以内の期間で留学を行い、各々が設定した課題に関連する専門分野の授業等を履修し、単位の取得を目的とする学修活動。

- 実施可能年次：2年次～4年次
- 実施期間：1学期（受入大学の学期）から1年間

海外インターンシップ 海外ボランティア 海外フィールド調査等

海外でのインターンシップやボランティア活動への参加、海外の大学機関における各々が設定した課題に関連する専門分野の技術修練・習得、海外でのフィールド調査などを目的とする活動。

- 実施可能年次：1年次～4年次
- 実施期間：8日以上（移動日を除く）1年未満、かつ、30時間以上の活動時間

短期留学・研修

一定の語学力の保持などを条件に学内募集・選考を行う短期留学・研修プログラム、または参加を許可する海外の教育機関等が実施する短期研修プログラムへの参加を通じ、各々が設定した課題に関連する専門分野の知識・技能の修得や、異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在の認識と、国際理解・知識の拡大を目的とする学修活動。

- 実施可能年次：1年次～4年次
- 実施期間：概ね1ヶ月以内（プログラムによる）

海外留学等用の経済支援

共創学部では、共創学部生対象の「海外留学等に係る経済支援」制度を設けています。

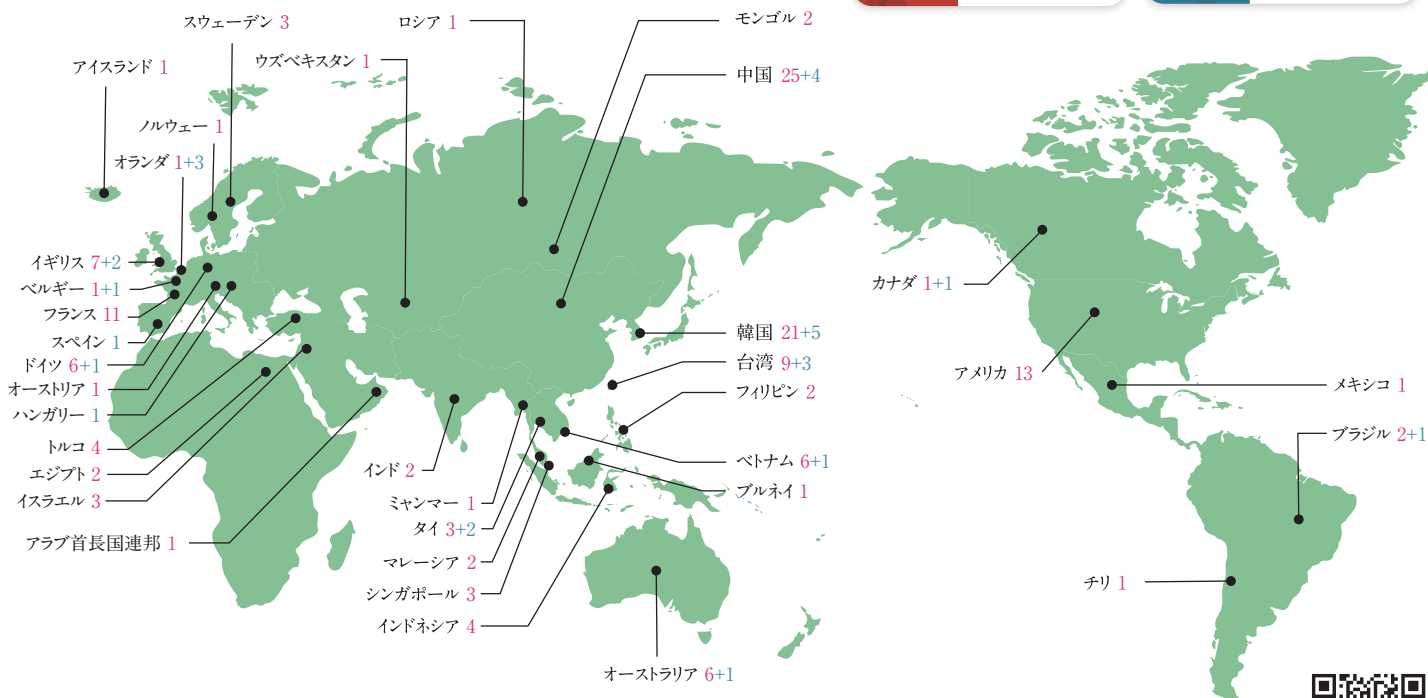
単位認定に必要な留学等を行う際、在学期間中に一回を限度として、留学等に係る費用の一部を補助する目的で留学準備金及び奨学金が給付されます。

※受給するためには、成績等の条件があります。

- 留学準備金：10万円又は15万円（渡航費用やビザ取得費用、危機管理及び保険のための費用などとして一部を補助）
- 奨学金：毎月5万円又は7万円（留学に係る経済支援として一部を補助） ※他の奨学金と併給可能です。
- ※各金額は、留学先等により異なります。 ※上記制度は2026年4月現在のものであり、変更される可能性があります。

大学間・部局間交換留学による 留学先大学数

大学間 協定	34ヵ国・地域 149 大学 (2026年5月現在)	共創学部 部局間 協定	14ヵ国・地域 27 大学 (2026年5月現在)
-----------	---	-------------------	--



赤い数字：大学間協定数
青い数字：共創学部部局間協定数

※九州大学の詳しい留学情報は以下URLをご覧ください。
<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>





留学体験記



オランダで見つけた新しい学び

オランダ・ライデン大学

2025 年夏から 1 年間、大学間交換留学でオランダのライデン大学に留学しました。2 年次のイギリスへの短期留学をきっかけに、ヨーロッパという地域とその歴史や社会のあり方に興味を持ちました。特に、個人の自由や多様性を重視し、子どもの幸福度の高さでも知られるオランダという国、そして 450 年の歴史を持ち、幅広い学問領域を網羅するライデン大学に魅力を感じ、留学を決意しました。

ここでしかできない学びに挑戦しようという目標を立て、これまで専門的に触れたことのない考古学や政治学、心理学、オランダ学の授業を受講しました。現地学生と共に学ぶ環境は刺激的である一方、読む論文の量やレベルの高い英語でのディスカッションに圧倒される場面もありました。しかしその中で、思考を組み立てながら議論に食らいつく力や、異なる前提を持つ他者と対話する力が鍛えられていったと感じています。特に印象に残っているのは、考古学部での博物館学の授業で、収集の歴史や植民地主義との関係、展示の実践を学びました。それまで単に鑑賞する場所として捉えていた空間の背後には、歴史的・政治

共創学部4年 濱田 彩菜 (HAMADA Ayana)

的な文脈や人間の意図が複雑に絡み合っていることを知り、ものの見方が大きく揺さぶられました。博物館学という学問自体が文理融合的で、留学前に共創学部で受けていた歴史や文化人類学、物理学の授業で得た知識との繋がりが思いがけずあったことも心に残っています。

ライデンでの日常生活も、とても充実していました。運河と緑に囲まれ、人々が自分らしくいきいきと暮らす、そんな空間で生活できたことが何よりも幸せで、今思い出しても夢のようです。ライデン大学には日本学科があり、授業補助や日本語会話クラブの運営、他にも日本語補習授業校や幼稚園でのボランティアを行いました。オランダと日本の教育観の違いとそれぞれの良さを知ることができた貴重な経験でした。

言語面での葛藤や文化の違いに戸惑ったこともありましたが、いろいろな人に助けられながらも自分なりに努力して乗り越えた経験は、大きな自信になりました。留学で得た様々なことを、今後は学問の場でも社会の中でも活かし、より広い視点から物事を捉えられる人でありたいと考えています。



カリブ海で踊った夏！2年の夏に私が選んだ挑戦

JICA海外事務所インターンシップ・プログラム(ドミニカ共和国)

共創学部3年 鈴木 歩理 (SUZUKI Ayuri)

大学に入学後、本気で打ち込めるものが見つからずに焦りを感じていた2年生の夏、私は大きなターニングポイントを迎えました。それが、JICA ドミニカ共和国事務所での1か月半のインターンシップです。参加の動機は、JICA の活動への関心と、「人と違う経験をしてみたい」という好奇心でした。

現地では日系社会との交流やカリブ海地域の広報マップ作成など様々なことに取り組みましたが、最も心に残り、私を大きく変えたのは「BonBon バンド」でのダンサー活動でした。世界中の音楽と盆踊りを融合させ、「盆踊りで世界中を輪にする」ことを目指す活動です。大好きなダンスを通じて、言葉の壁を越えて現地の方々との交流の輪が広がっていく手応えを感じました。「私にはダンスがあって本当によかった」と心の底から思えたほど、ダンスが異国の地での交流において私を支え、救ってくれたのです。

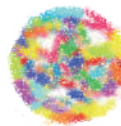
特に印象深いのは、現地の日系コミュニティで開催された盆踊り大会です。日本で20年間暮らしてきましたが、まさかドミニカ共和国で人生で最も濃密な盆踊りを堪能するとは思いませんでした。また、滞在期間中、たくさんの人と出会い、対話した時間もとても印象的でした。現地で出会った多様な生き方をする大人たちとの対話は、私の視野を

大きく広げてくれました。「大学生の可能性は無限大で、何だってできる」という前向きな勇気をもらいました。

また、数々の活動をこなす傍ら、毎週 JICA 職員の方と丁寧な振り返りを行ったことで、膨大なインプットに負けないくらい、確かなアウトプットと自己内省ができました。いただいたフィードバックを通じて、「自らやりたいことを見つけて挑戦する姿勢」や「新しい環境でも笑顔で何でも楽しむ姿勢」が自分の強みであると認識でき、それが自信につながりました。

インターン活動の内外を問わず、とにかく何にでも挑戦したこの留学は、私の「学びの姿勢」を劇的に変えました。帰国後は日本舞踊や盆踊り、よさこいといった踊り文化への興味が深まり、お稽古に通い始めました。卒業研究もダンスをテーマにする予定です。「日本の魅力をもっと語れる人になりたい!」という新たな目標も見つかり、長期休みには進んで国内の地方へと旅をしています。さらに、留学中の日本語学校訪問をきっかけに、戦時下のマレーシアにおける日本語教育の講義を受講するなど、実体験が座学の学びと結びつく面白さを実感しています。

机上の学びから離れ、未知の体験と濃密な人との交流に飛び込んだこのインターンは、私にぴったりの選択でした。まだまだこれからもたくさんの挑戦を積み重ねていきます。



共創学部生の 1 日

共創学部公式学生広報チームSNSの人気企画「共創学部生の1日」が、パンフレットに登場！2人の共創学部生のリアルな1日の様子を、学生のコメントとともにご紹介します。

3年生のSさん

7:00
~
8:00 準備

8:00
~
9:30 通学

9:30
~
10:30 自習
センター5号館レファレンス
ルームで勉強をします。

10:30
~
12:00 授業
英語でディスカッションを行う授業で
す。内容と言語が難しいですが、積
極的に発言することを心がけています。

12:00
~
13:00 昼食
友人と待ち合わせをして、学食や
教室でお弁当を食べています。

13:00
~
14:30 授業



14:30
~
17:00 インターン・
図書館
留学生と一緒に英語で行う
グループワーク

オンラインでインターンをし
ています。
また、授業に必要な本が
あるときには図書館で過
します。

17:00
~
18:30 帰宅

18:30
~
21:00 夕食など

21:00
~
24:00 課題
レポートが多く、内容も難しいので、
かなり時間をかけて取り組んでいま
す。答えが明確にあるものではない
からこそ思考力が必要とされ、
且つ鍛えられるなと感じています。

4年生のEさん

7:00
~
8:00 準備・通学

4年生になると、午前中は授業がある日は出席し
たり、DP(卒業研究)に向けて本や論文をレ
ビューしたりして過ごします。共創学部の授業はセ
ンター5号館で行われることが多いので、午前中
はセンターゾーンで過ごすことが多いです。

8:00
~
12:00 授業・自習



12:00
~
13:00 昼食・予習
学外でのフィールドワークの授業

ランチはお弁当を持参したり、価格がリーズナ
ブルでメニューのバラエティ豊富な学食でいただき
ます(唐揚げ定食が最推しです!)。午後に授業が
ある日は、リーディングの予習にも取り組みます。

13:00
~
14:30 授業



「共創プロジェクト」での
学年を超えたディスカッション

14:30
~
20:00 図書館
環境を変えて中央図書館で
勉強をして過ごします。

帰宅後は夜ご飯を作ります。大学の近くの温
泉施設でトレーニングやサウナも楽しんでい
ます。バイトがある日は天神へ向かいます。

20:00
~
24:00 夕食・ジム・温泉

共創学部公式学生広報チーム SNS はこちら！

学生広報チームは、Instagram と X、Facebook で、共創学部のことを発信して
います。授業や留学、先生の情報はもちろん、Xでは質問回答も行っています。
中高生向けのイベント情報も随時掲載しています。ぜひご覧ください！

Instagram : https://www.instagram.com/kyoso_koho/
X : https://twitter.com/kyoso_koho
Facebook : <https://www.facebook.com/kyushu.univ.isi/>



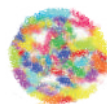
Instagram



X



Facebook



学生インタビュー Student Interview



共創学部4年 そ が たい ち 曾我 泰智さん(2023年4月入学)

神奈川県立湘南高等学校卒(神奈川)

Q1 幅 広い学問に触れてから、自分が学びたい領域を選べるところに魅力を感じたからです。私は高校生3年生の時に文理選択を迫られました。しかし、当時の自分は漠然と関心をもつものはあれど、何をどう学びたいのかはわからないでいました。受験をターゲットとした勉強をする高校生活の中で、大学の4年間で学ぶことを決定することに困難を感じたのです。そんな中、文理問わず多くの学問に触れることができ、自分の問題意識をもとに何を勉強するか選ぶことができる共創学部は大変魅力的に映りました。現在、政治哲学を専門とする先生に指導していただけていますが、高校生の時には知らなかった分野です。共創学部でなければこうした選択はできなかったと思います。

Q2 自 分とは大きく異なる人生経験をもつ学生から刺激を得られることです。大半の学部は同じような興味をもつ人間を集めるため、ある程度似通った趣向で固まりやすいと思います。しかし、共創学部はその性質上、学生の興味分野は多岐にわたります。自分と同じような領域を研究しようと思っている学生に出会うことはほとんどないです。それは単なる趣向の問題だけでなく、人生のバックボーンが異なることを意味していると思います。そのため、何気ない会話の中でも、自分と相手の人生経験や人生観が違うことに気づかされるが多々あります。同年代の友人が自分とは全く違うことを経験し、全く違うテーマに取り組んでいる姿を見ることは、自分自身を相対化し、見つめなおすことにつながると日々感じています。

Q3 現 在、福岡の繁華街の1つである天神の警固公園を中心に青少年の非行について研究しています。私は法や規律に反する行いに、強い抵抗感を覚えます。一方で、それは法や規律を守ることが、暮らしと精神衛生を保つことに繋がる環境に恵まれただけとも感じます。しかし、であれば個人、特に環境を自分で選ぶことが難しい子どもにはどうにもできない問題です。生まれた環境が充足してないと感じる時に、法や規律を破り非行に走ることは社会全体の問題であると思います。しかし、このように個人の問題を全体に帰すことに反対する声もあります。その背景は様々ですが、こうした社会に存在する格差や分断に対してアプローチできればと考えています。

Q1 学 際性とチーム型学習に力を入れたカリキュラムに魅力を感じたからです。高校時代に読んだ『文系の壁』(養老孟司・PHP新書)という本で文系と理系の考え方の違いが言及されていたのですが、自分はいわゆる「文系」寄りの人間だったため、「理系」の人の考え方も知りたい、さらには複合的な視点で社会を捉えられるようになりたいと思うようになりました。特に共創学部には幅広い分野に興味関心がある人が集い、留学生とのクラス・シェアもあるため、日々の授業で多様な価値観に触れることができます。このような環境で学ぶことで、自分の視野を広げることができると確信し、共創学部を選びました。

Q2 「自 分がここで学ぶ意義を考える機会が多いこと」と「正解のない問題を議論できること」です。共創学部ではいろいろな学問分野が学べる一方で、どの講義を受けるのか自分で考えて選ぶ必要があります。学部で幅広い分野の授業が受けられることはもちろん、留学生向けの授業に混ざったり、自分のやりたいことに合わせて他学部の授業を取ったりする人も多く、選択と挑戦の機会をたくさんもらえる場所だと感じています。また、講義内外で社会問題やニュース、日常の中で感じたちょっと気になることまで意見を交わすことが日常的にあり、「共創学部の存在意義とは何か」といった抽象的な問いまで、仲間や先生と真剣に議論できます。明確な「正解」がない問いに向き合い続けることができるこの環境こそ、共創学部で得た最大の財産だと思います。

Q3 こ とばや読書を通じた気づきや変化の可能性を、学問と実践の両面から探究したいと考えています。入学当初は多文化共生に関心があり、留学生向け授業へ参加したり、学部の学生国際化推進チームの一員として留学生サポートや日本人学生と留学生の交流促進に取り組んできました。一方、文学や哲学、社会学、言語学などを学ぶなかで興味がひろがり、今は言葉や読書、創作物が人に与える影響や、その受け取り方、かかわり方に関心をもっています。今は特に「大学生の読書離れ」に課題意識を持っており、人と本の関わり方についてしっかり考えていきたいと思っています。まだ具体的な進路は模索中ですが、自分の問いを大切にしながら、仲間と切磋琢磨し学びを深めていきたいです。



共創学部4年 こ が はるか 古賀 悠花さん(2023年4月入学)

福岡県立筑紫丘高等学校卒(福岡)

Q1 なぜ共創学部を選びましたか?
Q3 今後の取り組みたい課題・夢は?

Q2 共創学部に入ってよかったことは?



共創学部3年 **Airin Shirayama**さん(2023年10月入学)

Martyr Munir Alkan Science High School卒(トルコ共和国)

Q1 When I was in a science high school, we students were encouraged to major in STEM fields at university. However, as I explored the wide range of available majors, my interest gradually shifted from science to the humanities. Still, a part of me hesitated to leave science behind entirely. With so many options within the humanities as well, I found it difficult to decide on a specific major and felt confused and undecided. Around that time, my mother discovered the existence of ISI, and I had the opportunity to join an online campus tour. That experience made me realise that ISI is an interdisciplinary faculty that bridges science and the humanities, offering various fields from biology to history. The program also includes an international component and requires students to study abroad, which further increased my desire to study at ISI.

Q2 After enrolling in the ISI, I encountered glorious opportunities and met wonderful people. First of all, thanks to the nature of the program, I can still engage with numerous fields I am interested in, without being forced to stick to one specific course schedule like in high school. Perhaps this is common at other universities as well, but I am now able to explore subjects more deeply than the high school curriculum allowed, and the professors are very adept in their fields, which fosters my desire to learn even more. I also had the chance to connect with talented, kind, and confident people. Through these connections, I found close friends and was inspired by their passion and ability to take initiative—even one of my friends came to Turkey to visit me. This environment has motivated me to take action myself, such as becoming involved in IsiCON (ISI Student Internationalization Promotion Team).

Q3 Although I haven't decided on my research question yet, I am planning to focus my degree project on historic sites in Turkey and explore how to preserve these areas. Since childhood, I have had a deep interest in the ancient civilisations of Turkey, which has developed into a strong desire to help preserve them. To achieve this, I often ask myself: What can I do? How can I contribute meaningfully? In my future academic years, I hope to find the answers to these questions and play an active role in preserving these sites. However, I am still figuring out the exact path I should take. As a more immediate goal, I hope to pursue graduate studies to deepen my knowledge. I truly hope to realize these dreams in the future.

Q1 Like many others, I struggled to choose a major when applying to university. I was interested in sociology, economics, and management, but unsure whether I wanted to pursue them as career paths. Still figuring out my direction, I didn't want to commit to something I might not enjoy. That's when I discovered the ISI program. Its interdisciplinary approach gave me the freedom to explore different fields through classes taught by professors from diverse backgrounds. It allowed me to broaden my perspective without being confined to a single discipline. Additionally, I've always loved Japan, and studying here felt like the perfect way to challenge myself, step outside my comfort zone, and grow both academically and personally.

Q2 As expected, the best part about being in the ISI program is the incredible variety of classes we have access to. No matter what your interests are, whether they lie in science, business, design, or something else entirely—you'll be able to find courses that suit you. For those who are still unsure about which path to take in the future, I've found that exploring classes across multiple disciplines has been extremely helpful. It not only broadened my perspective but also allowed me to reflect deeply on what truly excites me. Through trial and error, I was able to explore different possibilities, eliminate what didn't suit me, and ultimately begin to form a clear picture of where I see myself in five years.

Q3 Currently, my degree project is about the social and economic consequences of the newly established TSMC (Taiwan Semi-conductor Manufacturing Company) Kumamoto fab. I choose this topic because I thought that as a Taiwanese living in Japan, it is a good opportunity for me to tackle an issue that has just emerged and has not been extensively studied. I wish to use this opportunity to expose the unexpected side effects under all the economic hype brought forth by this business move. My goal in the future is to bridge corporations with local communities through business management, and create business ethics principles which emphasize future stewardship. This degree project is thus my first step towards this goal.



共創学部4年 **Benjamin Joshua Lowy**さん(2022年10月入学)

International Bilingual School at Central Taiwan Science Park卒(台湾)



教員紹介

(2026年5月1日現在)

基幹教員



教授・学部長
荒谷 邦雄
ARAYA Kunio

【専門分野】
昆虫学、
生物多様性科学



教授・副学部長
三木 洋一郎
MIKI Yoichiro

【専門分野】
医学教育学



教授・副学部長
鬼丸 武士
ONIMARU Takeshi

【専門分野】
比較地域研究、
政治史



教授
ドラモンド
ダグラス
DRUMMOND Douglas

【専門分野】
Cytoskeletal
Proteins,
Molecular Biology



教授
萩島 理
HAGISHIMA Aya

【専門分野】
建築環境



教授
ハザリカ
ヘマンタ
HAZARIKA Hemanta

【専門分野】
地盤工学、地震防災、
環境地盤工学



教授
稲葉 美由紀
INABA Miyuki

【専門分野】
国際ソーシャルワーク、
社会開発、公共政策、
老年学



教授
鏑木 政彦
KABURAGI Masahiko

【専門分野】
政治思想史



教授
木實 新一
KONOMI Shin'ichi

【専門分野】
情報学



教授
ローレンス
ヨハン
LAUWEREYNS Johan

【専門分野】
認知神経科学



教授
益尾 知佐子
MASUO Chisako T.

【専門分野】
現代中国の政治外交、
国際関係論



教授
溝口 孝司
MIZOGUCHI Koji

【専門分野】
考古学



教授
永島 広紀
NAGASHIMA Hiroki

【専門分野】
歴史学、東洋史



教授
中村 真子
NAKAMURA Mako

【専門分野】
筋細胞生物学、
発生生物学



教授
大河内 豊
OOKOUCHI Yutaka

【専門分野】
初期宇宙論、
統一理論



教授
施 光恒
SE Teruhisa

【専門分野】
政治理論、政治哲学



教授
田尻 義了
TAJIRI Yoshinori

【専門分野】
考古学



教授
山尾 大
YAMAO Dai

【専門分野】
中東政治、国際関係、
比較政治



准教授
有賀 智子
ARIGA Tomoko

【専門分野】
素粒子実験



准教授
ブレジナ ヤン
BREZINA Jan

【専門分野】
偏微分方程式



准教授
藤岡 悠一郎
FUJIOKA Yuichiro

【専門分野】
地理学



准教授
藤原 素子
FUJIWARA Motoko

【専門分野】
素粒子物理学



准教授
舟橋 京子
FUNAHASHI Kyoko

【専門分野】
人骨考古学



准教授
古川 不可知
FURUKAWA Fukachi

【専門分野】
文化人類学、
ヒマラヤ地域研究



准教授
ガイナ
ダニエル
GAINA Daniel

【専門分野】
数理論理学、圏論、
形式手法



准教授
グディパンディ
ウィスヌ
スーヤンタラ
GDE Pandhe Wisnu Suyantara

【専門分野】
資源処理工学



准教授
ホール
アンドリュー
HALL Andrew

【専門分野】
日本・東アジア近代史



准教授
ハズウェル
クリストファー
ガレス
HASWELL, Christopher Gareth

【専門分野】
Sociolinguistics
(English as a
Lingua Franca)



准教授
金山 浩司
KANAYAMA Koji

【専門分野】
科学史



准教授
金子 美樹
KANEKO Miki

【専門分野】
健康・医療情報学



准教授
木附 晃実
KITSUKI Akinori

【専門分野】
開発経済学、
応用ミクロ計量経済学、
政策評価



准教授
栗田 健一
KURITA Kenichi

【専門分野】
応用経済学



准教授
楠木 理香
KUSUNOKI Rika

【専門分野】
日本語教育学、
言語政策



准教授
李 曉燕
LI Xiaoyan

【専門分野】
知識科学、
第二言語習得論



准教授
松尾 和典
MATSUO Kazunori

【専門分野】
昆虫学、農学

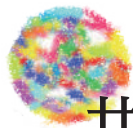
	准教授 長谷 千代子 NAGATANI Chiyoko 【専門分野】 文化人類学		准教授 中野 伸彦 NAKANO Nobuhiko 【専門分野】 岩石学		准教授 野中 ちさと NONAKA Chisato 【専門分野】 国際・トランスナショナル教育		准教授 岡田 昌也 OKADA Masaya 【専門分野】 情報学、 行動情報処理、 マルチモーダル センシング		准教授 仙田 量子 SENDA Ryoko 【専門分野】 地球化学
	准教授 瀬平 劉 アントン SEVILLA-LIU Anton 【専門分野】 哲学、臨床教育学		准教授 スルチョードリ ビシュワジット SURCHOWDHURY Vishwajit 【専門分野】 動物栄養生理学		准教授 徳久 悟 TOKUHISA Satoru 【専門分野】 サービス・デザイン、 ヒューマン・コンピュター インタラクション、 イノベーション・マネジメント		准教授 内田 諭 UCHIDA Satoru 【専門分野】 言語学		准教授 上野 益俊 UENO Ikjoon 【専門分野】 生態毒性学
	准教授 渡部 哲史 WATANABE Satoshi 【専門分野】 水文学		准教授 山形 幸彦 YAMAGATA Yukihiko 【専門分野】 プラズマ理工学		准教授 山本 明日香 YAMAMOTO Asuka 【専門分野】 開発経済学、 インド経済論		講師 ヴァイス デーヴィッド WEISS David 【専門分野】 日本・東アジアの 思想史		助教 足立 達朗 ADACHI Tatsuro 【専門分野】 地質学、岩石学

授業担当教員

教授 馬場 英司 BABA Eishi 【専門分野】 腫瘍内科学	教授 カアベイロ ホセ CAAVEIRO Jose 【専門分野】 タンパク質工学、構造生物学	教授 百村 帝彦 HYAKUMURA Kimihiko 【専門分野】 自然資源管理、政治生態学、 東南アジア地域研究、環境政策	教授 伊藤 幸司 ITO Koji 【専門分野】 日本中世史、東アジア交流史	教授 菅 浩伸 KAN Hironobu 【専門分野】 自然地理学	教授 笠原 玉青 KASAHARA Tamao 【専門分野】 河川水文、生物地球化学	教授 楠見 淳子 KUSUMI Junko 【専門分野】 分子進化学、集団遺伝学	教授 桑原 義博 KUWAHARA Yoshihiro 【専門分野】 鉱物学
教授 波瀲 剛 NAMIGATA Tsuyoshi 【専門分野】 比較文学	教授 荻野 由紀子 OGINO Yukiko 【専門分野】 内分泌学、進化発生学、 環境科学	教授 大野 正夫 OHNO Masao 【専門分野】 地球物理学	教授 大津 隆広 OTSU Takahiro 【専門分野】 英語学、認知語用論	教授 遠矢 浩一 TOYA Koichi 【専門分野】 臨床心理学	教授 山下 潤 YAMASHITA Jun 【専門分野】 環境地理学、地域計画論、 地理情報科学	准教授 阿部 康久 ABE Yasuhisa 【専門分野】 人文地理学	准教授 オーガスティン マシュー AUGUSTINE Matthew 【専門分野】 日本近現代史
准教授 何 昕霓 Ho, Hsin-Ni 【専門分野】 触覚情報学	准教授 金子 晃介 KANEKO Kosuke 【専門分野】 マルチメディア情報学	准教授 毛塚 和宏 KEZUKA Kazuhiro 【専門分野】 数理社会学、計量社会学、 計算社会科学	准教授 木田 新一郎 KIDA Shinichiro 【専門分野】 海洋物理学、気候力学	准教授 北澤 満 KITAZAWA Mitsuru 【専門分野】 経済史	准教授 松枝 佳奈 MATSUEDA Kana 【専門分野】 比較文学、比較文化	准教授 岡本 剛 OKAMOTO Tsuyoshi 【専門分野】 システム神経科学	准教授 長田 紀之 OSADA Noriyuki 【専門分野】 歴史学、東南アジア地域研究
准教授 清野 聡子 SEINO Satoquo 【専門分野】 生態工学、 海岸河川の環境保全学、 水生生物学	准教授 武田 友加 TAKEDA Yuka 【専門分野】 応用経済、移行経済論、 ロシア経済、開発経済学	准教授 田北 雅裕 TAKITA Masahiro 【専門分野】 コミュニケーションデザイン、 まちづくり、子ども家庭福祉	准教授 トマ ディエゴ THOMAS Diego 【専門分野】 Computer Vision	助教 稲村 徳州 INAMURA Tokushu 【専門分野】 イノベーション手法、 イノベーションプロセス、 デザインエンジニアリング、 デザイン思考	助教 馬 博軒 MA Boxuan 【専門分野】 情報知能工学		

特別参画教員

教授 本多 史憲 HONDA Fuminori 【専門分野】 物理学、放射線、原子力	准教授 松本 崇弘 MATSUMOTO Takahiro 【専門分野】 錯体化学、触媒化学	准教授 若林 真美 WAKABAYASHI Mami 【専門分野】 国際保健	助教 五島 健太 GOTO Kenta 【専門分野】 物質科学
---	--	---	--



共創学部の入試について

九州大学は、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する全学的な入試改革を推進しています。この方針に基づいて、共創学部では「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」を掲げ、志願者の能力を複数の観点から見極めるために、本学部が掲げるアドミッション・ポリシーに準じて、次のような特色をもつ入学者選抜を実施します（アドミッション・ポリシーは共創学部ホームページをご覧ください）。<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/pages/about/policy/>
2028年10月に新学科「国際連携学科(仮称)」が開設される予定です。新学科の概要や入試については共創学部ホームページよりご確認ください。

1. 4種類の選抜試験

本学部のアドミッション・ポリシーに述べた「求める学生像」の4つの観点から、志願者の能力や態度等を見極めるために、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「国際型入試」の4種類の選抜試験を実施します。また、それぞれの入試類型の中でも複数の観点を組み合わせ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

2. 文理共通問題

一学部一学科の学部として、独自入試では文理共通の試験問題を課します（留学生に対する試験を除く）。理系クラスで学んできた志願者も、文系クラスで学んできた志願者もどちらも解答可能な問題を用意し、いずれかが不利になることのないよう配慮します。

3. 志望理由書

これまでにない新しい学部であることに鑑み、すべての入試類型で「志望理由書」の提出を求め、学部への理解や適性などを確認します。
※総合型選抜については「志望理由書・活動歴報告書」として提出を求めます。

総合型選抜(募集人員:15人)

共創学部総合型選抜では、大学入学共通テストは課さず、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉9月上旬～中旬

〈選抜期日〉10月中旬(第1次選抜)、11月下旬(第2次選抜)

〈合格発表〉12月下旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、実際に大学で行われる講義(人文社会系と自然科学系の2つの講義)を受講した上で執筆する小論文及び調査書、志望理由書・活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。志望理由書・活動歴報告書では志望理由、正課、正課外の諸活動が評価の対象となります。第2次選抜では、討論及び面接を行い、第一次選抜の結果と合わせて総合的に評価して可否を判定します。

学校推薦型選抜(募集人員:15人)

高等学校等の長からの推薦をもとに、学校推薦型選抜を実施します。推薦できる人数は、1校につき1人とし大学入学共通テストを課し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉11月上旬

〈選抜期日〉11月中旬～12月中旬(第1次選抜)、1月下旬～2月上旬(第2次選抜)

〈合格発表〉2月上旬～中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となりますが、特に高校での正課における学習活動を高く評価します。第2次選抜は、プレゼンテーションと面接を実施します。第1次選抜の評点、第2次選抜の評点、大学入学共通テストの「国語」「数学」「英語」「情報」の合計点、これらを総合して可否を判定します。大学入学共通テスト「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、提出された成績を募集要項の「みなし基準表」にしたがって換算し、大学入学共通テスト「英語」の得点として利用することが可能です。ただし、この場合においても、大学入学共通テスト「英語」の受験は必須です。(詳細は募集要項を参照のこと)

一般選抜 (募集人員:65人)

大学入学共通テストと個別学力検査の合計点、志望理由書を総合的に評価して可否を判定します。本学部では幅広い分野の基礎知識と問題解決のための思考力をもった学生を求めています。そのような志願者を選抜するために、大学入学共通テストでは幅広い教科・科目を課し、高等学校で修得すべき基礎的な知識の学習の有無を評価します。なお、大学入学共通テスト「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、提出された成績を募集要項の「みなし基準表」にしたがって換算し、大学入学共通テスト「英語」の得点として利用することが可能です。ただし、この場合においても、大学入学共通テスト「英語」の受験は必須です。(詳細は募集要項を参照のこと) また、個別学力検査では、「数学」「英語」「小論文」を課し、本学部で学ぶために求められる学力や思考力を評価します。

〈出願期間〉1月下旬～2月上旬

〈選抜期日〉2月25日、26日※前日程のみ

〈合格発表〉3月8日

国際型入試 (募集人員:10人)

主に海外留学生向けの入学試験として、私費外国人留学生入試(4月)及び国際型入試(10月入学)を実施します。本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から日本留学試験等の成績提出を求めます。また、面接、志望理由書を含む出願書類をアドミッションポリシーの「求める学生像」の観点から評価します。

令和8(2026)年度入試結果

入試区分 (定員)	志願者数	合格者数	倍率
総合型選抜 (15)	77	14	5.50
学校推薦型 選抜 (15)	30	15	2.00
一般選抜 (65)	234	71	3.30
国際型 入試 (10)	私費 (4月) (若干名)	21	4
	私費 (10月) (若干名)	77	16
合計 (105)	439	120	—

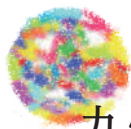
これまでの志願状況

中国	158	ミャンマー	4	ウクライナ	1
韓国	90	インド	9	ロシア	2
台湾	16	スリランカ	1	エジプト	1
香港	1	パキスタン	1	ナイジェリア	1
モンゴル	7	バングラデシュ	4	ケニア	1
インドネシア	43	ウズベキスタン	1	アメリカ	44
シンガポール	6	カザフスタン	2	カナダ	2
タイ	10	トルコ	2	アルゼンチン	1
カンボジア	1	イギリス	1	グアテマラ	1
ネパール	2	オランダ	1	ブラジル	2
フィリピン	10	ドイツ	2	ペルー	1
ベトナム	15	スロベニア	1	オーストラリア	4
マレーシア	9	ブルガリア	1	ニュージーランド	1

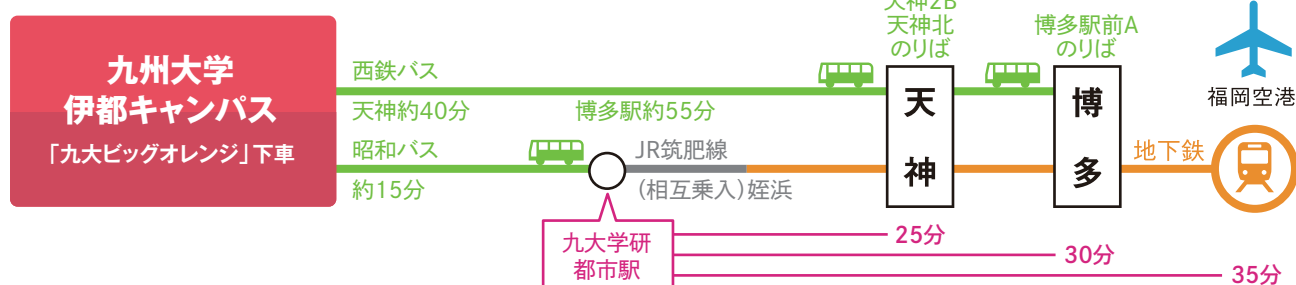
北海道 36									
青森 2									
秋田 2									
岩手 2									
山形 1									
宮城 6									
福井 3									
石川 10									
富山 4									
新潟 6									
群馬 6									
福島 6									
島根 15									
鳥取 15									
山口 83									
広島 113									
岡山 55									
兵庫 60									
長崎 155									
佐賀 96									
福岡 1,131									
熊本 198									
大分 112									
鹿児島 134									
宮崎 116									
愛媛 52									
香川 13									
高知 10									
徳島 7									
和歌山 8									
三重 6									
京都 41									
滋賀 9									
岐阜 16									
長野 7									
山梨 11									
埼玉 34									
栃木 6									
東京 136									
茨城 25									
千葉 28									
沖縄 114									

※詳しい入試情報は、入学選抜概要や募集要項をご覧ください。





九州大学伊都キャンパス アクセス情報



■福岡空港から

「福岡空港」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「福岡空港」駅(地下鉄空港線)→「博多」駅下車→「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車)

■博多から

「博多」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車)

■天神から

「天神」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「天神2B(ソラリアステージ前)」および「天神北(3)」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車)

■佐賀(唐津)方面から

JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「筑前前原」駅下車→糸島市コミュニティバス「九大線」に乗車
 JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

お問い合わせ

九州大学学務部共創学部課(伊都キャンパス センター5号館5階)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話番号:092-802-5890 メールアドレス:gazkyoso@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学

詳しい情報は、共創学部ホームページをご覧ください。
<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/>



2026.7発行

表紙デザイン:武田奈々(共創学部卒業生1期生)